

暁木会会員 各位

令和 8 年 3 月 吉日

暁木会

<http://www.gyoubokukai.jp>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。暁木会ニュース第 54 号では市民工学科・専攻の近況報告、就職状況の報告、卒業生へのメッセージ、椿先生の研究報告、大学生活の思い出、海外インターンシップ体験報告、工学部功労賞特別表彰、支部総会報告、暁木一水会の活動報告を寄稿いただきました。暁木会活動の報告及び令和 7 年度総会の案内とともに、ぜひご一読いただきますようお願いいたします。

市民工学科・専攻の近況報告

市民工学専攻 市民工学科 教授 内山 雄介

暁木会の皆様には、平素より市民工学科・市民工学専攻の運営ならびに学生教育に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。皆様の継続的なご支援こそが、本学科・専攻の教育・研究活動を安定的かつ着実に推進する原動力となっております。

本年度は、暁木会与教室との定例意見交換会を 7 月 10 日（木）、10 月 9 日（木）、1 月 13 日（火）に開催し、後述する「土木業界説明会」や会費会員数の増強策等について実質的な議論を重ねてまいりました。とりわけ会員増強策については、3 月末の総会の行事構成を見直し、卒業記念パーティーを主軸とする形式へと改編する方針を確認いたしました。これにより、参加率の回復を図るとともに、地方支部を含む同窓会メンバーと卒業・修了生との世代をつなぐ交流が、これまで以上に活性化することを期待しております。このような取り組みと連動させる形で、学位授与式当日に加え、2 月末の卒業・修了判定結果通知時にも暁木会入会勧誘を実施いたします。また、12 月 14 日（日）には学生主催のフットサル大会を開催し、学生・教職員 69 名が参加し、優勝チームに暁木会カップを授与しました。山下会長はじめ幹事各位にもご臨席賜り、暁木会の周知に資する機会となりました。

毎年お寄せいただいている助成金は、フットサル大会経費のほか、オープンキャンパスにおいて暁木会主催で現役学生と共同で実施する「橋の学校」の資材保管場所整備費等に有効に充当いたしました。将来の工学系人材育成の観点からも意義深い取り組みであり、今後も学生生活の充実と暁木会の発展に資するよう、効果的な活用を検討してまいります。

教育面では、暁木会のご協力により「公共施設工学」等の科目をご提供いただき、現場の知見を学生が直接学ぶ貴重な機会となっております。今年度からは「プロジェクト・マネジメント」と「公共施設工学」を金曜午後に連続開講し、より実践的な学修を展開しております。さらに、この 2 科目の合同企画として、7 月 25 日（金）には学部 3 年生対象の「土木業界説明会」をグループ討論形式で実施し、暁木会幹部・幹事の皆様にファシリテーターとして、各業界から 22 名もの若手同窓生にプレゼンターとしてご参画いただきました。77 名の参加学生からは大変高い評価を得ており、学生の業界理解に大いに資するもの

となりました。このような取り組みは、次年度以降も継続して実施してまいります。

教員組織では、本年度4月に三木朋広准教授、鶴田宏樹准教授が教授に昇進し、人間安全工学講座には4月に椿涼太准教授、2月に寺澤広基准教授が着任しました。一方で、加藤正司准教授は本年度が最終年度となります。加藤准教授は、株式会社鴻池組勤務（1985年4月～1988年3月）を経て1988年4月に神戸大学工学部教務職員として着任、その後、1991年4月から名古屋工業大学工学部助手、1996年4月から神戸大学大学院自然科学研究科助手を経て、1998年4月に神戸大学工学部助教授に昇任し、2007年4月からは神戸大学大学院工学研究科准教授として現在に至るまで、一貫して教育・研究と組織運営にご尽力されました。長年にわたる学部・大学院での丁寧な学生指導、カリキュラム整備への寄与、専攻内の若手教員育成・研究指導における功績はまことに大きく、ここに深甚なる謝意を表し、今後ますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

最後に、令和8年度の学科長・専攻長は鋏田泰子教授、教学委員は椿涼太准教授が担当いたします。就職担当は、令和9年4月採用予定の現M1および3年生を中山恵介教授、翌年度は内山が担当予定です。なお、工学研究科長は藤井稔教授（電気電子工学専攻）、評議員は南秀人教授（応用化学専攻）が務められます。

結びに、暁木会の皆様の温かいご厚情と日頃のご支援に、改めて心より御礼申し上げます。皆様からのお力添えは、学生の学修環境の向上と、本専攻の教育・研究体制の充実に大きく寄与しております。来る年度におきましても、人材育成と研究の一層の発展に努めてまいります。引き続き本専攻へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、暁木会のさらなるご発展と会員各位のご健勝を心より祈念いたします。

表-1 市民工学科・市民工学専攻の教育研究体制（令和8年2月現在）

講座	教育研究分野	教授	准教授	助教
人間安全工学	構造安全工学	三木 朋広	寺澤 広基	
	地盤安全工学	橘 伸也*	高山 裕介*	
	交通システム工学	織田澤 利守	瀬谷 創	
	地盤防災工学	竹山 智英		
	地震減災工学	鋏田 泰子 長尾 毅*		
	流域防災工学		椿 涼太	
環境共生工学	環境流体工学	内山 雄介	齋藤 雅彦	
	水圏環境工学	中山 恵介		
	地圏環境工学	大石 哲* 梶川 義幸*（特命）	加藤 正司	
	都市保全工学		橋本 国太郎*	
	都市経営工学	小池 淳司 鶴田 宏樹**	瀬木 俊輔	

無印 主配置は工学研究科市民工学専攻

* 主配置は都市安全研究センター

** 主配置はバリュースクール（V.School）

就職状況の報告

令和7年度 就職担当教員 市民工学専攻 市民工学科 教授 竹山 智英

日頃より学生の就職活動に対して多大なるご支援ならびにご協力を賜り、誠にありがとうございます。昨今の就職・採用環境の変化を受け、教室では学生への支援のあり方の見直しを進めてきました。今年度は学部3回生を対象とした業界説明会を7月（昨年度は4月）に開催致しました。また、毎年2月頃に実施していた企業説明会を廃止し、神戸大学工学振興会（KTC）主催の理工系就職ガイダンス「きらりと光る優良企業」（10月、12月開催）に参加していただくことに致しました。説明会等の開催に際しましては、暁木会会員の皆様方より格別のお力添えを頂いておりますこと、改めまして厚く御礼申し上げます。

下表は、令和8年1月時点における就職内定・進学予定状況のまとめです。お蔭さまで、概ね例年通りの就職内定状況となりました。なお、令和9年4月に就職を目指す学生に対する就職支援は、中山恵介教授が担当致します。引き続き、ご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

業種	学部卒業者		大学院博士前期課程修了者	
	人数	就職内定先・進学予定先	人数	就職内定先・進学予定先
国家公務員	0		0	
地方公務員	2	吹田市、宝塚市	2	神戸市(2名)
独立行政法人	0		1	鉄道建設・運輸施設整備支援機構
鉄道	0		5	南海電気鉄道(株)(3名)、九州旅客鉄道(株) (株)阪急阪神ホールディングス
道路・運輸	1	阪神高速道路(株)	4	阪神高速道路(株)(2名) 中日本高速道路(株)、西日本高速道路(株)
総合建設業	4	鉄建建設(株)、(株)大林組、大成建設(株) オリエンタル白石(株)	7	鹿島建設(株)(2名)、(株)竹中工務店(2名) 清水建設(株)、(株)竹中土木、東洋建設(株)
建設コンサルタント	4	日本工営(株)、中央復権コンサルタンツ(株) パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)NJS	2	(株)ニュージェック フジミコンサルタンツ(株)
鉄鋼、橋梁、 プラント、建材	0		3	日揮(株)、日鉄エンジニアリング(株) JFEエンジニアリング(株)
エネルギー	0		5	東京電力ホールディングス(株) 関西電力(株)、中国電力(株)、中部電力(株) 大阪ガス(株)
通信	2	NTTドコモ(株)、オブテージ(株)	1	KDDI(株)
IT、メディア	1	楽天グループ(株)	1	日鉄ソリューションズ(株)
住宅、不動産、商社、 金融、その他	4	福井コンピュータホールディングス(株) 三菱UFJ信託銀行(株)、(株)ウィル テトロイトマツコンサルティング 合同会社	6	(株)電通総研、積水化学工業(株) 農林中央金庫、(株)オープンハウス 住友商事(株)、パーク24(株)
進学	41	神戸大学(39名)、京都大学 東京科学大学	2	神戸大学(2名)
その他	2	進学予定(1名)、未定(1名)	1	未定(1名)
合計	61名		40名	

卒業生の皆さんへ — 人生の分岐点に立ったときに

市民工学専攻 市民工学科 准教授 加藤 正司

私は本年三月末をもって、大学での職を終え、定年退職を迎えることとなりました。今回、OB 会の会誌に寄稿する機会をいただき、かつて同じ学科で学んだ後輩の皆さんに向けて、人生の先輩として少しだけ思うところをお伝えしたいと思います。

皆さんの多くは、学生時代を終え、社会に出る、あるいはすでに社会の中で歩み始めていることと思います。将来に期待を抱く一方で、「この選択でよかったのだろうか」「このまま進んでいいのだろうか」と、ふと不安になる瞬間もあるのではないのでしょうか。実は私自身も、まさに同じ思いを抱えながら社会人生活を始めました。

私は大学院修了後、建設会社に就職しました。社会に出て働くことは新鮮で、現場と直結した仕事には大きなやりがいがありました。しかし、数年が経つうちに、心の奥に小さな違和感が生まれていることに気づきました。「このままこの道を進んで、自分は本当に納得できるのだろうか」という、はっきり言葉にしづらい思いです。

決定的だったのは、ある仕事を通じて、自分の価値観と職場で求められる判断との間にズレを感じたときでした。その瞬間、初めて立ち止まり、「周囲の期待ではなく、自分はどう生きたいのか」を真正面から考えることになりました。会社を辞めるという選択は不安も大きく、失敗に終わる可能性も十分にありました。それでも最終的に背中を押したのは、「この違和感から目をそらしたままでは、後で必ず後悔する」という率直な気持ちでした。

結果として私は研究の道に戻りましたが、今振り返って思うのは、その選択が正しかったかどうかよりも、「自分の本心に従って決めた」という事実そのものが、後の人生を支えてくれたということです。もしあのとき別の道を選んでいても、納得して選んだのであれば、それもまた自分の人生だったと思います。

人生には、いくつかの分岐点があります。その場では正解が分からず、選択を誤ったと感ずることもあるでしょう。しかし、失敗したと思える経験も、後になって振り返れば、次の判断の軸を育ててくれます。遠回りをして、立ち止まっても、やり直すことはできます。

どうか皆さんには、迷ったときこそ、自分の内側にある「本当はどうしたいのか」という声を大切にしてほしいと思います。他人の基準ではなく、自分なりに納得できる選択を重ねていくことが、結果として後悔の少ない人生につながるはずです。

少し先を歩いてきた一人の先輩として、皆さん一人ひとりが自分の判断を信じ、しなやかに人生を歩まれることを心より願っています。

研究報告

新技術で探る洪水時の川底 ～6年間の継続観測から得られた河川再生のヒント～

市民工学専攻 市民工学科 准教授 椿 涼太

1. はじめに

北海道の札内川では、多様な環境を取り戻すため、ダムからのフラッシュ放流、置き土、二次流路の掘削を組み合わせ意図的に川をかく乱し、河原を再生する取り組みが進められています。

しかし、洪水時の観測は、機材の流失リスクや激流による濁りで川底の目視が不可能なため、これまでは出水前後の地形変化から何が起きたかを推測するしかありませんでした。今回報告する研究は、その洪水中に、どれくらいの水の力が川底に作用し、どんな大きさの砂礫が、いつ、どれくらい動いたかをのぞき見るための、二つの新しい技術を現場に導入した取り組みです。

2. 洪水時の川底の様子を知る

この研究で使われたのが、スフェラ(Sphera)とジオフォン(Geophone)という2つのセンサーです(図1)。

- ・スフェラ：川底の石の形をしたコンクリート製のセンサーです。内部に3つの小型圧力計が埋め込まれており、川底が水から受ける圧力、特に、砂礫を動かす駆動力となる圧力の“変動”を、1秒間に最大50回という速さで記録します。いわば、川底の石にかかる水の力を測る装置です。
- ・ジオフォン：川底に設置する水中マイクです。流れてくる砂礫が装置に「カツン、ゴツン」と当たる音を拾い、その音の大きさや頻度から、いつ、どんな大きさの石が、どれくらい動いたかを聞き分けることができます。

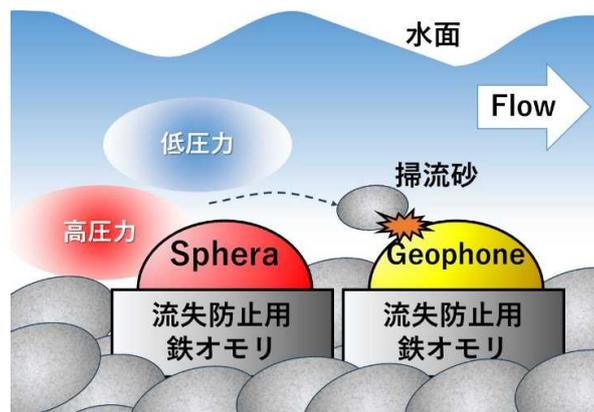


図1:川底の力を測る「スフェラ」と砂礫の動きを聴く「ジオフォン」

3. フラッシュ放流中にN工区近辺で何が起きたか？現場に役立つ3つの発見

これらの新技術を使って札内川のフラッシュ放流を観測した結果、今後の河川管理に役立つ重要なヒントが見えてきました(図2)。

発見1:掘削した二次流路(図2の掘削水路1)は、土砂で埋まる傾向が見られた 多様な流れを作るために掘削した二次流路では、滞筋にくらべると土砂移動が限定的で、どちらかというところ、滞筋から流れ込む土砂の量が、水路から出ていく量を上回り、結果として2019年には土砂が堆積してセンサーが埋まってしまいました。他方、直近の2025年の出水では、それまで堆積傾向にあった箇所の土砂移動が活発化していることが確認されました。

発見2:もうひとつの掘削水路(図2の掘削水路2)は主流化しました 掘削水路1の下流の湾曲部の発達と、掘削水路2の東側(図の右側)の旧みお筋で堆積がすすみ、掘削水路2への流入流量が増え、主流化しました。

発見3:川は年々違う顔を見せている(=再生が進んでいる証拠) 2019年の放流時から2025年の放流時での計測結果を俯瞰すると、その様子は全く異なりました。活発に動いた年もあれば、ほとんど動かなかった年もありました。これは、川が固定化せず、放流のたびに地形が変わり、流れ方が変化していることを示す兆候です。

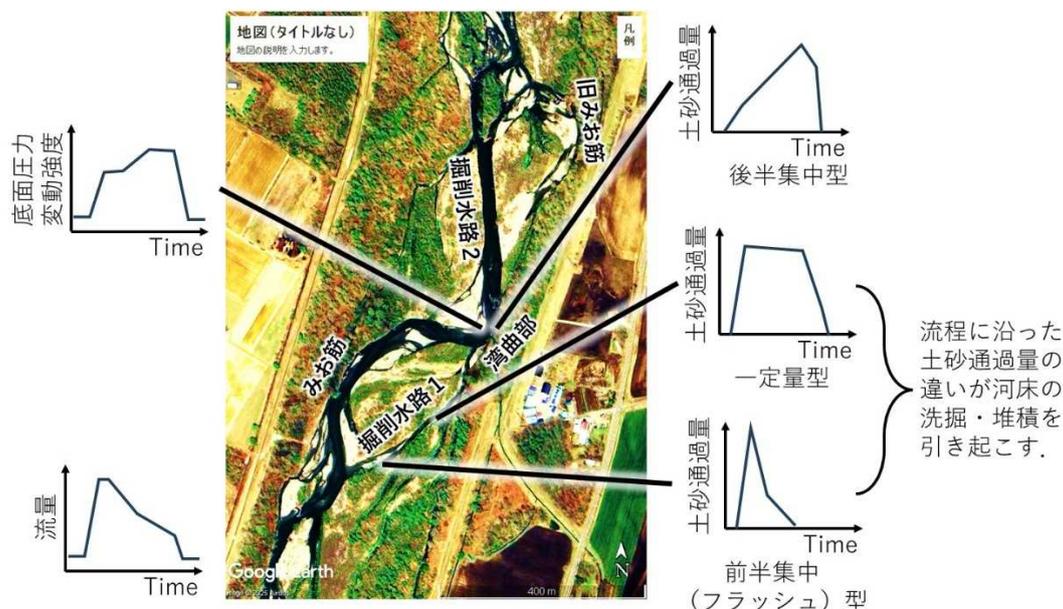


図2:フラッシュ放流中の土砂移動の可視化

4. まとめ

本技術は、ブラックボックスだった洪水時の流れと砂礫の移動現象を図2のように可視化し、シミュレーションでは捉えきれない現地の動態を浮き彫りにします。土砂補給や水路掘削の効果を客観的に評価することは、河川の維持管理の次の一手を最適化する鍵となります。河川計測に関する産官学連携のコンソーシアムもごございますので、実務への本技術の活用に興味をお持ちの同窓生はぜひご一報ください。

大学生活の思い出

修士2回生 梶川 耕平（齋藤研究室）

神戸大学で過ごした六年間は、まさに苦楽のすべてを全力で味わい尽くした時間でした。振り返れば、その一日一日が濃密で、かけがえのない経験の積み重ねだったと感じています。

学生生活の中で最も情熱を注いだのは、硬式野球部での活動です。高校時代から「神戸大学のユニフォームを着て神宮大会に出場したい」という夢を抱き、憧れを胸に受験勉強に励みました。合格が決まった瞬間の喜びは、今でも鮮明に思い出せます。入部後はまさに野球漬けの毎日でした。まだ街が静かな早朝からグラウンドに向かい自主練習に励み、授業が終われば再び仲間と夜遅くまで白球を追う。強豪私立大学という高い壁に阻まれ、思うような結果が出ず、自分の力不足に打ちひしがれることも幾度となくありました。それでも、同じ目標を持つ仲間と切磋琢磨し、泥にまみれながら過ごした日々は、何ものにも代えがたい財産です。勝敗だけでは測れない努力の価値や、仲間とともに挑戦する喜びを学んだ時間でした。

一方で、大学院での研究活動もまた、私の学生生活を形づくる大きな柱でした。部活動に多くの時間を費やしてきた自分にとって、大学院入試は大きな試練でした。土木工学の基礎から学び直す日々は決して容易ではありませんでしたが、教授や先輩方の温かい指導、研究室の同期の支えのおかげで乗り越えることができました。進学後は地盤環境学研究室に所属し、三次元モデルを用いたキャピラリーバリアの遮水性能に関する研究に打ち込みました。野球部を引退してからは生活の中心がグラウンドから研究室へと移り、複雑な条件設定や解析に行き詰まり、深夜までモニターと向き合うこともありました。その厳しさは部活動とはまた違うものでしたが、試行錯誤を重ねながら一つ一つ課題を克服していく過程には大きなやりがいがありました。地道な努力の末に修士論文という形にまとめ上げられた経験は、何よりの自信となっています。

野球と研究——そのどちらにも全力で向き合えたこの六年間を、私は心から誇りに思います。挑戦できる環境を与えてくれた神戸大学、そしていつも支えてくださった指導者の方々や仲間たちへの感謝の気持ちは尽きません。ここで得た経験と絆を胸に、これからの人生も力強く歩んでいきたいと思えます。



試合に勝利した後の涙

大学生活の思い出

学部 4 回生 高地 ほのか（瀬谷研究室）

私のこの4年間は、間違いなくこれまでの人生の中で最も密度の濃い学生生活でした。専門的な学びに始まり、研究活動、留学、友人や同期との日々、学習塾や大学でのアルバイト、就職活動まで、どの場面を切り取っても簡単には語り尽くせないほどの思い出と感情が詰まっています。

1年生の頃を思い返すと、新しい環境や大学の複雑な仕組みに戸惑い、右も左もわからないまま、ただ必死に目の前のことを消化するだけの日々でした。正直、余裕など全くなく、毎日を乗り切ることで精一杯だったと思います。それでも今振り返れば、教養科目を通じて幅広い分野に触れ、雑多な知識を吸収できた時間は、後の学びを支える大切な土台となっていました。

2年生から3年生にかけては、学校生活に慣れるとともに、専門科目や実技的な授業が増え、学ぶことそのものがさらに楽しくなってきました。アルバイトがない日は友人とほぼ毎日のように夜8時過ぎまで図書館や空き教室に残り、課題やレポートに向き合いながら議論を重ねていました。疲れているはずなのに不思議と苦ではなく、あの理解を深める過程があったからこそ学ぶ面白さを実感できたのだと思います。また、2年生の春休みには、KTCのプログラムを通じてオーストラリアのメルボルン工科大学を訪れ、交換留学生として学ぶ機会をいただきました。教育環境や文化の違いに刺激を受け、新たな友人と出会えた経験は、私の視野を広げてくれました。



4年生から始まった研究室生活は本当に驚くほどあっという間でした。研究室の先輩方や同期が温かく迎えてくださったおかげで早く馴染むことができ、研究に没頭する充実した毎日を過ごすことができました。学生生活最後の一年ということもあり、学会やヒアリングへの同行、暁木会主催のフットサル大会への参加など、これまで経験できなかったことにも積極的に挑戦できた一年だったと感じています。その中で何よりも感謝の気持ちをお伝えしたいのが、指導教員である瀬谷創准教授です。無知な私に対して、多くの知識や技術を教えてくださっただけでなく、常に真摯に、そして根気強く向き合ってくださいました。知識の深さはもちろん、人としての在り方においても、これまで出会ってきた先生方の中で最も尊敬する方です。思考力に乏しい私がここまで卒業研究に従事できたのは瀬谷先生のご指導と支えがあったからこそだと、心から感じています。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。



市民工学科で過ごした4年間は常に「市民工学とは何か」を自分なりに問い続ける時間でもありました。土木という枠を超え、環境や経済、人々の暮らしまでを含めて考える市民工学は、「人のため」を突き詰める学問なのだと思います。正直に言えば、私自身が市民工学を完全に解釈できたわけではありません。しかし、この4年間で得た経験や知識、人とのつながりはこれから先も私を支え続けてくれる一生の財産です。今後は、市民工学のエンジニアの一人として、思考をやめることなく成長し続け、自分にできる最大限のことを社会に還元していきたいと考えております。

最後になりましたが、私がここまで歩んでこられたのは、家族、友人、先生方、そしてこれまで関わってくださった全ての方々のおかげです。皆様に心から感謝申し上げるとともに、皆様のこれからの人生がさらに豊かで実りあるものとなることを願っております。

神戸大学工学部市民工学科、本当にありがとうございました！



大学生活の思い出

学部 4 回生 澤田 柚香（橋本研究室）

大学生活の 4 年間で振り返ると、勉強や部活動など様々な経験をする事ができ、とても充実した時間を過ごすことができたと感じています。

土木の勉強に興味を持ち選んだ市民工学科では、専門的な知識の習得はもちろんですが、それ以上に大きな財産となったのは友人との出会いです。日々の授業や試験をともに乗り越え、学外でも多くの時間を共有し、私の部活動も支えてくれたこと、心から感謝しています。卒業後も大切にしていきたい、私にとってかけがえのない存在となりました。

4 年生になり研究室に配属されてからは、卒業研究が始まりました。研究を進める中で、自分の考えをまとめ他者にわかりやすく伝えるプレゼンテーション技術の不足を痛感しました。しかし、橋本先生をはじめ、行き詰まったときに的確なアドバイスをくださる先輩方、切磋琢磨しながらともに笑い合える同期に恵まれたことで、とても成長できたと感じています。

最後に、22 年間支えてくれた家族、大学生活の 4 年間で関わったすべての方々に心より感謝申し上げます。春からは社会人として、大学生活で学んだことや素晴らしい人間関係を糧に、社会に貢献できるよう、精一杯頑張ります。



大学での写真



部活動引退時の写真

大学生活の思い出

学部4回生 伊藤 凜星（橘研究室）

「ずっと憧れてきた神戸大学に合格でき、ほっとしています。」大学合格後すぐに、母校の日記にこう書いた過去の自分には、輝かしい未来が見えていたはずでした。

私は、過去の自分が想像していた大学生活よりも、さらに素晴らしい、充実した4年間の大学生活を、この市民工学科で過ごすことができたと思っています。

私たちの入学した年には、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン形式だった授業から、対面での授業が再開しました。これにより、初回のガイダンスの時から既に多くの同期と交流ができました。先生方や友人達と面と向かって、より多くの時間を共有することで、「この授業で先生はこう言っていた」、「あの実験では友達がやらかしてしまった」などと、今思い返しても、オンライン形式では絶対にできなかった濃い時間を送り、語り合える思い出を作りました。コロナウイルスが終息し、「普通」の生活が戻ってきたことは当たり前ではなく、運が良かった、だからこそ大事にしたいと感じています。

振り返れば、他にもたくさんの活動に取り組むことができました。高校時代まではサッカー部に所属しており、大学でも入部を検討しましたが、サッカー以外の活動にも積極的に取り組みたいと思い、真剣にサッカー取り組むサークルを自分達で立ち上げました。活動量は少なく、週1回の練習ですが、同じ熱意を持った仲間が集まり、創設二年目にして国公立大学サークルの全国大会で優勝することができました。

3回生の時には、阪神淡路大震災から30年の節目の年であったので、神戸市が主催するフォーラム「RE KOBE」の実行委員として約半年間活動しました。この「RE KOBE」では、阪神淡路大震災での教訓や経験を忘れずに、次世代へと繋いでいくことを目的としており、私は阪神高速道路さんと共にフォーラムに登壇し、震災からの復旧とその後の備えについて対談させて頂きました。より多くの方々、特に震災を経験していない世代に、自分たちの思いが伝わっていることを願っています。

この活動での経験は、進路を決める上でも糧になりました。市民の方々の暮らしを守る安心・安全な社会基盤をつくりたい、その事業に直接関わっていききたいという思いからゼネコンに就職することを決めました。昨今激甚化している災害から人々の暮らしを守るため、更なる社会基盤の整備を進めていきたいです。

4回生では研究室に配属され、私は橘研究室に所属しました。橘研究室は竹山研究室、高山研究室と3つの研究室と合同であるため、たくさんの先輩方と同期に恵まれ、賑やかな1年間を過ごすことができました。特に思い出深いのは、暁木会に支援して頂いている市民工学科フットサル大会です。市民工学科の研究室対抗で行うこの大会に、先輩や同期、さらに高山先生と共にチームを組んで出場し、見事優勝という結果を収めることができました。

まだまだここには書ききれないほど、学校生活やサークル活動、旅行などの思い出がこの4年間には濃縮されています。4月からは社会人になりますが、この4年間で培った経験をもとに、さらに充実したものになるように精進していきたいです。

海外インターンシップ体験報告

欧州シンクタンクにおける研究交流

修士 2 回生 花村 龍祐 (小池研究室)

私は 2024 年 9 月、ベルギーのルーヴェンを拠点とするシンクタンク、Transport & Mobility Leuven において 2 週間の短期インターンシップに参加いたしました。本インターンシップの主眼は、同社が専門とする交通政策や経済分析の知見に触れるとともに、私が大学院で進めてきた「東京一極集中と所得格差」という、現代日本が直面する構造的な社会経済問題に関する研究内容について、欧州の専門家との交流を図ることにありました。

現地での活動期間中、最も苦心したのは自らの研究課題が持つ日本特有の特殊性を共有し、正しく理解を得るプロセスでした。日本の都市が抱える極端な一極集中やそれに付随する所得格差は、歴史的背景や都市の成り立ち、あるいは社会構造が根本から異なるヨーロッパの専門家にとって、必ずしも直感的に理解しやすいものではありませんでした。特に、欧州の都市構造と比較した際の日本の現状は、彼らの目には極めて特異な事象として映ったようです。この認識の壁を乗り越えるため、私は多角的な統計データや日本の地理的・社会的な背景を詳細に提示し、多量の情報に基づいた粘り強い説明を試みました。客観的なデータを用いて日本の現状を一つひとつ紐解くことで、最終的には研究の本質を正確に伝えることができ、欧州の都市モデルとの比較に基づいた極めて有意義かつ建設的な議論へと発展させることができました。

本インターンシップを通じて得た最大の収穫は、日本の都市問題を海外という外部の視点から俯瞰的に捉え直したことです。欧州の知見や異なる価値観に直接触れることで、自国の課題を客観視することができ、自身の研究にさらなる深みと多角的な視点を持たせることが可能となりました。この経験は、単なる専門知識の習得に留まらず、複雑な社会問題を多面的に捉え、背景の異なる他者へ論理的に伝える重要性を学ぶ貴重な機会となりました。

最後になりますが、本インターンシップにあたり、多大なるご支援を賜りました暁木会の皆様に深く御礼申し上げます。渡航費や宿泊費へのご助成をいただいたおかげで、海外のシンクタンクという容易には得がたい環境で研鑽を積むことが叶いました。この貴重な経験を糧に、2026 年 4 月から始まる社会人生活においても、広い視野を持ちながら社会の発展に寄与できるよう、一層精進してまいります。



工学部功労賞 特別表彰

令和7年10月25日、鴻池一季様（土木22回生）に、長年にわたるご活躍と神戸大学への多大なご貢献に対し、「工学部功労賞 特別表彰」が授与されました。神戸大学ホームカミングデー工学部企画の中で、藤井稔工学研究科長から表彰状と記念品が贈呈されました。

鴻池様は1974年に神戸大学工学部土木工学科をご卒業後、カリフォルニア大学バークレー校に留学。1975年に株式会社鴻池組に入社。1985年に代表取締役、その後、取締役会長・特別顧問を歴任され、2013年には名誉会長に就任されました。長年にわたり企業経営および人材育成にご尽力されています。

また、1992年から現在に至るまで、タンザニア連合共和国名誉領事として国際交流の発展に寄与されています。

神戸大学においては、市民工学科となった2007年から13年間にわたり、市民工学科の「プロジェクトマネジメント」講座の講師を務められました。また、2015年から3年間、工学振興会の理事長として工学研究科への教育・研究支援に尽力され、さらに、鴻池組による「鴻池ガーデン」のネーミングライツ設置にもご尽力いただきました。この命名権料は、神戸大学の教育・研究活動に活用されております。

2024年には、神戸大学創立記念基盤事業への多額のご寄附により、日本国政府より紺綬褒章が授与されました。

鴻池様におかれましては、ご健勝にて、今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。



東海支部総会報告

1. 日時 令和7年10月8日(水) 18:30~21:00
3. 会場 PRIVATE DINING 点 (ともる) 名駅太閤口店
4. 出席者
来賓：神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 瀬谷 創 准教授
暁木会本部 山下 剛 会長
支部会員 18名
5. 議事 令和6年度会計報告
令和6年度監査報告

令和6年度の東海支部総会は、都築新支部長をはじめ18名の会員が参加し開催されました。議事後、来賓としてお越しいただいた瀬谷准教授と山下会長より、大学の近況や暁木会本部の活動についてご報告いただきました。

総会後の懇親会では、終始リラックスした雰囲気の中、職種や世代を超えて会話が弾み、懇親を深めました。

報告者：東海支部事務局 東邦ガスエナジーエンジニアリング（株） 小山



広島支部総会報告

1. 日 時 : 令和7年8月1日(金) 18:00~20:00
2. 会 場 : 広島ガーデンパレス
3. 出席者 : 【来賓】橋本国太郎准教授(神戸大学)、久保真成副会長(本部)、
西本靖支部長(岡山県支部)、小野さゆり書記(岡山県支部)
【支部会員】10名
4. 議 事 : 令和6年度会務報告・会計報告、広島支部役員紹介、
本部活動報告、大学の近況報告

広島支部では、令和7年8月1日に大学より橋本先生、本部より久保副会長、岡山県支部より西本支部長、小野書記をお迎えして、令和7年度広島支部総会を開催いたしました。

総会では、橋本先生より鋼構造における高力ボルト摩擦接合に関する研究の内容について説明をいただきました。摩擦接合部のエネルギー吸収を利用し、支承部の耐震性を向上させ、低コストかつ安全性や復旧性を確保する移動制御装置の開発について、工夫した事や開発時の苦労話などを紹介いただきました。また、岡山県支部の小野書記より2024年能登半島地震による被災自治体への派遣について、現地の状況や派遣先での活動をご紹介いただきました。出席者の皆さんは質問や意見交換を行い、親睦を深められておりました。

懇親会は出席者の皆さんのご活躍、暁木会のさらなる発展を祈念して乾杯で締め盛会のうちに終わることができました。

令和8年度の広島支部総会も同じ時期(7月下旬~8月上旬)を予定しております。今後とも、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

報告者：暁木会広島支部事務局 復建調査設計(株) 木村裕行 (08C10M)

TEL : 050-9002-1742 / E-mail : h-kimura@fukken.co.jp



図1 橋本先生による研究紹介時の様子



図2 懇親会の締めの乾杯

岡山県支部総会報告

1. 日 時 令和7年10月19日（日）
 2. 会 場 ピュアリティまきび
 3. 出席者 来 賓：椿涼太准教授、久保真成副会長
 支部会員：15名（支部間交流の広島、四国支部会員計3名を含む）

大学から椿先生、本部から久保副会長をお迎えし、また支部間交流している広島支部から小田秀樹支部長及び事務局の木村裕行氏並びに四国支部から富田隆弘副支部長にご参加いただき、支部総会を開催しました。

総会では、西本支部長の挨拶に続き、椿先生から大学の近況等についてご報告をいただき併せて先生の研究内容についてご紹介をいただきました。また、久保副会長からは本部の活動状況などを織り交ぜたご挨拶をいただきました。

支部役員の改選、会計報告の承認を経て総会を終えた後、懇親会を行いました。お酒や料理が進むにつれて話に花が咲き、大いに盛り上がり、また、令和6年能登半島地震の被災地である富山県氷見市に災害派遣された支部会員の小野さゆり氏（C08）による派遣報告などもあり、非常に有意義な懇親会となりました。

今後も支部長・副支部長のもと、岡山県支部における暁木会の活動の輪を一層広げていけるよう努めていきたいと思っております。

報告者 岡山県支部事務局 岡山県備前県民局建設部 熊城 秀輔（C03）



四国支部総会報告

1. 日時 令和7年8月30日(日) 17:00～19:00
2. 会場 酔灯屋(高松市)
3. 出席者

来賓：神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 三木 朋広 教授
 暁木会本部 永井 哲夫 副会長
 岡山県支部 桐野 眞二 副支部長
 支部会員 13名

令和6年8月の四国支部設立に続き2回目となる令和7年度暁木会四国支部総会にご来賓3名のほか13名の支部会員に参加していただき、盛会のうちに終えることができました。

半井支部長(議長)の挨拶で始まった総会では、ご来賓の紹介と三木教授、本部の永井副会長、岡山県支部の桐野副支部長の挨拶に引き続き、昨年度の事業報告及び決算、会計監査報告、今年度の事業計画と予算、役員改選に係る議案について滞りなく承認されました。

総会の後、富田副支部長の乾杯の挨拶で始まった懇親会では、お店自慢の季節の料理に舌鼓を打ちながら、乾杯直後から和やかな雰囲気ですぐに歓談が行われました。途中で、出席者による自己紹介を兼ねた近況報告も行われました。一人1～2分程度の予定でしたが、様々な分野・立場で研究や業務を進めてきた百戦錬磨の出席者ばかりですので、興味深い話が続き、盛り上がったまま、KTC理事で四国支部オブザーバー兼会員の濱村様の中締めまであっという間に時間が過ぎていきました。

このような会員間の交流を、今後とも続けていく必要があると実感した総会及び懇親会でした。今回の総会出席者は40歳代以上でしたが、先立って開催した幹事会では昨年度卒業したばかりの若い会員の方も参加されており、事務局としては、幅広い年齢層、幅広い分野の会員が活発に交流する支部となるよう、少しでも貢献できたらと考えています。

報告者：四国支部事務局 香川県庁 十河昌司 C42



総 会

懇親会

暁木一水会令和7年度活動報告&令和8年度活動予定

【令和7年度の暁木一水会の活動報告】

回	開催日	内容	講師
173	R7.5.14	【講演会】 兵庫県、神戸市、大阪府の主要施策	兵庫県土木部 竹本 修 氏 神戸市港湾局 長谷川 憲孝氏 大阪府都市整備部 田中 博 氏
174	R7.8.27	【講演会】 「近現代神戸の都市史と記録の保存・活用」	大阪公立大学特任准教授、神戸市文書館 村上 しほり 氏
175	R7.11.5	【現場見学会】 「西神戸ゴルフ場跡地 新産業団地整備、神戸西バイパス事業」	
176	R8.2.4	【講演会】 「不飽和土の力学挙動に及ぼすサクシヨンの影響」	神戸大学大学院工学研究科 准教授 加藤 正司 氏

【令和8年度の暁木一水会の活動予定】

回	開催日	内 容	講 師
177	R8.5.13*	【講演会】	兵庫県、神戸市、大阪府の職員
178	R8.8.5	【講演会】	一般の講師
179	R8.11.4	【見学会】	
180	R9.2.3	【講演会】	母校の先生

※5月の例会は、会場の都合等により日時を変更しております。お間違いのないようご注意ください。

場 所 楠公会館（湊川神社内）住所：神戸市中央区多聞通 3-1-1 電話：078-371-0005

会 費 5千円 ※昨今の物価高騰により、場所・会費が変更になる場合があります。

連絡先 暁木一水会代表世話人 油井 洋明[㊟]

連絡調整役 飯塚 教雄 C04（神戸市役所） TEL：090-5044-0435

暁木会活動の紹介

暁木会は母校および KTC の発展に寄与するための事業、機関誌や会員名簿など刊行物の発行、ホームページの更新管理、ならびに会員相互の親睦に関する事業を行うために設立された団体です。ここでは、神戸大学イベントの支援活動をご紹介します。

紹介させていただく活動の他に学術振興基金助成金の使途に関して、学生の意向を把握するためにアンケート調査を実施させていただく予定です。助成金の対象として「国内でのフィールドワーク」「卒業論文執筆時の差し入れ」「資格取得費用」など、学生にとって身近な使途も検討しています。

1. 大学3年生への土木業界説明会

- ・日時： 令和7年7月25日（金）13：20～16：40
- ・対象者： 新3年生約77名
- ・場所： 神戸大学工学部 教室（LR202、LR203、スタジオワン、C2-202（予備））
- ・内容： 学生をA～Dの4班に分け、班ごとに座談会形式の業界説明を実施

<土木業界説明会スケジュール>

区分	時刻	内容
準備	12：50～13：05	OB参加者集合（教室棟LR203）、概要説明
	13：05～13：20	会場準備
講義	13：20～13：25	趣旨説明、暁木会・KTCの紹介（大学より）
	13：25～13：35	暁木会会長・KTC役員より挨拶、取組紹介
	13：35～13：40	（移動、準備）
	13：40～14：10	座談会 1回目（30分）
	14：10～14：15	（移動、準備）
	14：15～14：45	座談会 2回目（30分）
	14：45～15：05	（移動、準備、休憩）
	15：05～15：35	座談会 3回目（30分）
	15：35～15：40	（移動、準備）
	15：40～16：10	座談会 4回目（30分） 講義終了（各コーディネーターより）
講義後	16：10～16：40	OBとのフリータイム

< 業界説明会に参加した暁木会 OB >

ブース	教室	所属	コーディネータ	出席者①	出席者②
① 公務員	LR202	国土交通省	兵庫県 永井哲夫 (C42)	下田 潤一 (C03)	
		兵庫県		川上 拓人 (C17)	田宮 由梨 (C11)
		神戸市		高田 早希子 (C10)	伊藤 朗 (C13)
② 民間1	LR203	UR都市機構	神戸市 谷口文彦 (C05)	向井 由佳 (C01M)	
		阪急阪神不動産(株)		安井 裕一 (C07)	吉田 達也 (C12)
		阪急電鉄(株)		永田 賢司 (C07)	
		(株)神戸製鋼所		佐伯 拓也 (C08)	
③ 民間2	スタジオ 東側	J R西日本	神戸市 久保真成 (C42)	山本 健太郎 (C15)	伊藤 佑果 (C17M)
		阪神電鉄(株)		小田 崇裕 (C12)	
		阪神高速道路(株)		川合 将斗 (C15)	
		関西電力(株)		田村 篤志 (C19)	青嶋 かりん (C22)
④ 民間3	スタジオ 西側	大成建設(株)	兵庫県 船越寿明 (C98)	前川 慎太郎 (C18)	
		(株)竹中土木		佐藤 俊 (C14)	
		中央復建コンサルタンツ(株)		玉井 幸志朗 (C22)	干野 一騎 (C18)
		(株)オリエンタルコンサルタンツ		須崎 響介 (C22)	小嶋 花楓 (C25)



< 業界説明会実施状況 >

昨年4月に開催頂いた業界説明会について、令和7年度から授業カリキュラムの見直しに合わせて、今年は大学の「プロジェクトマネジメント・公共施設工学」の講義の一環として7月25日の2コマを業界説明会に充てて実施しました。学生へのアンケートの結果、進路を検討する上で「参考になった」との回答を多数いただきました。今後も継続していくべく、引き続き、大学側と意見交換しながら、活動を実施していきます。

2. 第19回神戸大学ホームカミングディへの参画

- ・日時： 令和7年10月25日（土）13:30～15:30
- ・場所： 神戸大学工学会館 2F ラーニングcommons
- ・参加者： 小学3年生～6年生 10名

昨年度に引き続き「橋の学校」と題した親と子の理科工作教室を開催しました。

① 橋の仕組みを学びながら模型を製作



② 紙で強い橋をつくろう



③ ダヴィンチの橋の木製キット組立1



④ ダヴィンチの橋の木製キット組立2



3. 神戸大学市民工学科・市民工学研究科 フットサル大会（暁木会カップ）

・日 時： 令和7年12月14日（日）15：00～18：00

・場 所： KOBE UNIVERSITY SPORTS FIELD

昨年度に引き続き、学生主催のフットサル大会（暁木会カップ）が開催されました。

開催に係る経費の一部（コート代、参加賞など）に暁木会の助成金を活用しました。優勝したチームに山下暁木会会長より優勝カップが贈呈されました。

研究室	チーム名	人数
織田澤研	OD Flow -Offense/Defense-	8人
	攻撃一極集中	8人
瀬木研	FC Se(セレン)	9人
中山研	中山研	6人
外部	倉茂探偵団	6人
TTT 研	DACSAR BROTHERS	5人
	SAD CONERS	6人
大石梶川研	哲	7人
橋本研	織田 FC	7人
三木研	GO!MIKI!GO!	7人
	合計	69人



令和7年度総会のご案内

令和7年度総会を下記のとおり開催いたします。多忙の折とは存じますが、何卒ご出席のほどよろしくお願いいたします。

- ・日 時： 令和8年3月25日（水） 午後5時30分～午後6時00分
- ・場 所： 湊川神社 楠公会館（URL: <https://www.minatogawajinja.or.jp/nankou/>）
- ・備 考： 総会終了後、同会館内で**卒業記念パーティー**を開催いたします。
午後6時00分～午後7時30分
あわせてご出席いただきますようお願いいたします。
会費5,000円は、当日お支払いいただきます。
- ・連絡先： 暁木会常任幹事 吉牟田 竜太 C99
E-Mail (info@gyoubokukai.jp)

会費納入のお願い

暁木会は、会員の皆さまからいただく会費を主な収入源として運営しています。各界で活躍の会員の皆さまのお力添え、応援をぜひ暁木会の活動に賜りたく、どうかそれぞれの活動に関心を寄せていただくとともに、この機会に会費納入をご検討いただければ幸いです。ここに、会費納入の方法をご案内いたします。

1. 年会費額：3,000円

※年会費納入の登録をいただいた会員には、暁木会会員名簿（2年ごとに発行）を送付させていただきます。

2. 会費納入の手続き

会費納入の手続きをご希望される方は、暁木会事務局（info@gyoubokukai.jp宛）に氏名と連絡先を記載したメールをお送りください。後日暁木会事務局から「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」と「返信用封筒」を郵送いたします。手続き完了後は、集金代行業務を委託している三菱UFJニコス株式会社にて、ご指定の金融機関から口座振替（自動引落とし）をいたします。登録情報の変更や登録の解除をご希望される場合は、暁木会事務局（info@gyoubokukai.jp宛）にご連絡ください。会費納入手続きの情報は、ホームページ（URL <http://www.gyoubokukai.jp/nenkaihi/nenkaihi.html>）にも掲載しています。

3. 口座振替の時期：毎年10月下旬ごろの予定です。

おわりに

最後になりましたが、暁木会ニュース第 54 号の発行にあたり、執筆を引き受けていただいた皆さまにはたいへんなご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

暁木会ニュースでは、会員の皆さまからの記事を募集しています。会員相互の親睦を深める機会に頼りといたしますのが、皆さまからの情報になります。同窓会などを開催された際には、その様子をぜひ寄稿してください。

暁木会の活動に関して、ご意見、ご要望などございましたら、下記までご連絡くださいますようお願いいたします。

発行者： 暁木会
【E-mail】 info@gyoubokukai.jp
連絡先： 常任幹事広報担当
後藤 尚 C00